

# 大場川

## アドバイス①

小規模な休憩施設を数ヶ所整備できるとよい。



階段護岸の施工事例

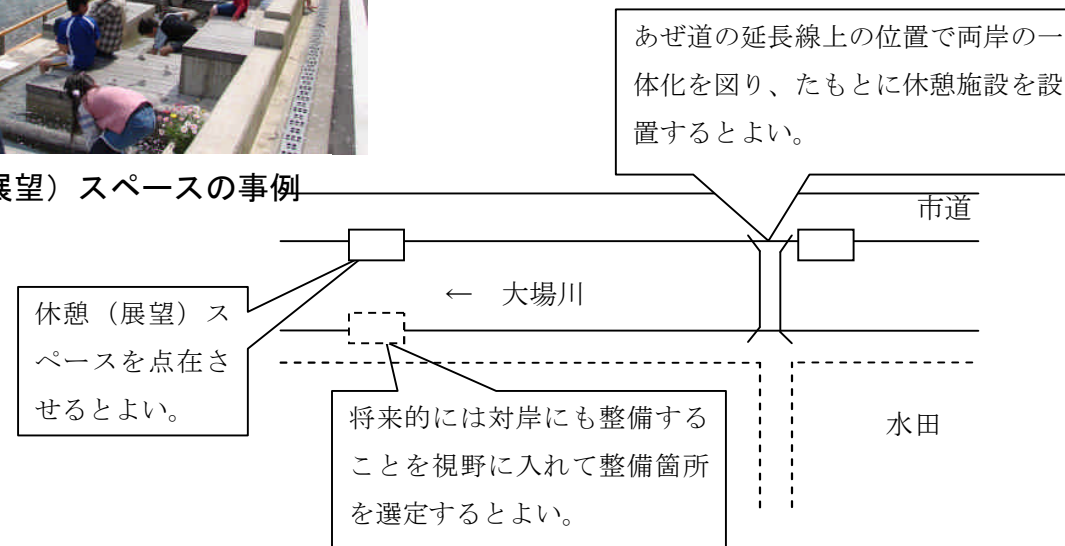
大場川の水質は決して良好ではない上、浅瀬が無く水深が深い(左)。このような場所では利用者を水面に近づける効果が小さく、転落等の危険性も高いと考えられる。

また、直線的で長大な階段護岸は景観的に変化が乏しく、大きな圧迫感を与えられる場合もある。



休憩(展望)スペースの事例

遊歩道整備を前提とすれば、施設は線ではなく点として整備した方がよい。対象区間において、数ヶ所の休憩(展望)スペースを設け、しっかりと作り込むようにできるとよい。



あぜ道の延長線上の位置で兩岸の一体化を図り、たもとに休憩施設を設置するとよい。

## アドバイス②

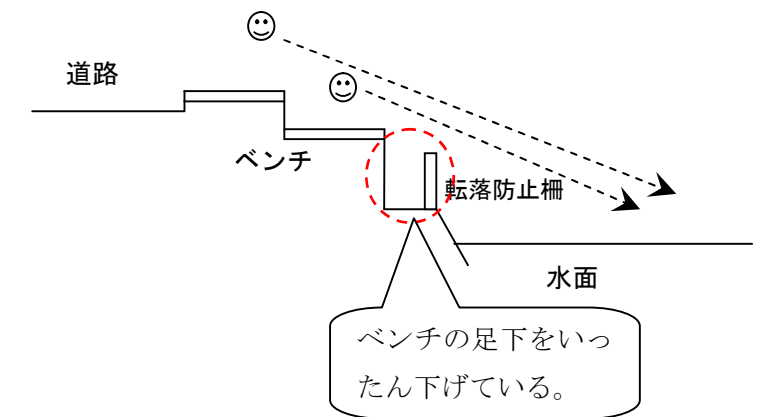
視方向の立ち上がりを抑え、視対象を見やすくすべきである。



視点であるデッキの足下をいったん下げて、視方向の立ち上がり(転落防止柵)を抑えることで、視対象である水面の見えの大きさを確保している整備の事例。



手すりでほとんど水面が見ない展望バルコニー



## アドバイス③

対岸との一体化を図れるとよい。



対岸の田んぼのあぜ道は視点場として良好な空間であり、付近の住民の散歩道として機能している。

人道橋などが整備できるとよいが、今回整備する施設の対岸にも(将来的に)休憩機能を設けることにより視覚的な一体化を図ることが可能である。